

「サマリア人」 Samaritans

紀元前 721 年、アッシリア王サルゴン二世が北イスラエルのサマリアを占領した時、多くの高位住民は強制移住させられ、各地から異民族が入り、そこに残ったイスラエル人との間に生まれた人々とされています。彼らはゲリジム山に神殿を立て、旧約聖書の律法の書をサマリア語に訳して礼拝を守りました。ユダヤ教の大切な教えを守りながらも、後から付け加えられた律法にない宗教的規定を取り入れなかったため、ユダヤ人たちから忌み嫌われ、差別の対象として扱われてきました。

そんな中、イエスは今朝の福音書のエピソードや「善いサマリア人」のたとえ話などを通して、ユダヤ人の形式ばかりの宗教観を批判し、人間性の新しい理解の道を開いていきました。